

【別紙2】

大阪市立中野小学校 令和元年度校長経営戦略支援予算【**基本配付**】実施報告書 (補足説明資料)

本校では、「児童学校生活アンケートの「学習したことがよくわかる」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を92%以上にする。また、体力合計点を全国体力・運動能力・運動習慣調査等の全国平均に男女とも近づける」ことを年度目標とし、年度目標に応じた事業効果を測る指標として、「ICTを活用して教育活動を充実させ、よりわかりやすい授業づくりを進める。

また、すべての学習活動で、自分の考えを説明し合う場を多く設定し、自分を表現する力を向上させる。体力向上に向けて体育科の授業や外遊びの工夫・改善・授業の始めにサーキットトレーニングを取り入れ、継続して体力づくりを進める」ことを設定した。

上記を達成するために、以下の2つの取組を行った。

1. 取組内容（1）について

1-1. 取組を実施する必要性

本校では、算数を研究教科で5年前から取り組んでいる。系統立てて問題解決学習を行っているが、ICTを活用した授業が全校として取り組めていない状況である。そこで、デジタル教科書やタブレットを活用した授業の工夫を行うことが（それを行える環境の整備（授業準備の負担軽減等）も含む）が必要である。

上記の課題を解決するために、教育振興基本計画における「施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組」の一環として、「ICTを活用して教育活動を充実させ、よりわかりやすい授業づくりを進める。

また、すべての学習活動で、「自分の考えを説明し合う場を多く設定し、自分を表現する力を向上させる」ことを実施する。

1-2. 取組を実施することにより期待できる効果

「デジタル教科書の活用により、児童の学習意欲を向上させ、母集団全体での対象児童の単元テストの正答率の向上につなげる」ことが期待できる。

また、「授業準備にかかる負担軽減により、課題のある児童の状況分析を行い、分析結果に応じた重点的指導を行うことで、単元テストの正答率の底上げにつなげる」ことが期待できる。タブレットを活用することで、小グループで自分の考えを説明し合う場をもち、表現しようとする意欲につながる。

1－3. 具体的な実施内容

具体的な実施内容としては、下記のとおりである。

① デジタル教科書の活用

具体的には、授業用パソコンに取り込んだデジタル教科書を使って授業を進めることで、教材作成の時間を軽減したり、視覚支援を行ったりして児童の学習意欲の向上につなげる。

② タブレットの活用

具体的にはタブレットを授業の中で写真に取り込んだり、発表資料を取り込んだり、パワーポイントを作成したりすることで、自分の意見を発表しようとする意欲につなげる。

1－4. 取組に対する達成状況（A～D）及びその評価理由

・取組に対する達成状況：A

・評価理由：

取組内容①においては、デジタル教科書やタブレットを使って学習を進め、ICTを使った授業は分かりやすいという児童アンケートの目標を85%に設定していたが、結果は大きく上回り、94%であったので十分成果をあげることができた。

また、取組内容②においては、児童学校生活アンケートの「自分の考えを説明したり、発表したりすることをがんばった。」の項目については、74%と概ね目標値に近づいた。

以上の成果から、A評価とした。

2－1. 取組を実施する必要性

昨年度の本校の全国体力・運動習慣調査の結果は、体力合計点で男子・女子とも全国や大阪市平均より2ポイント下回っている。そのうえ、校舎建て替えで運動場が狭くなり十分遊んだり、運動したりするスペースがないので、場所がなくてもできる運動を工夫する必要がある。上記の課題を解決するために、教育振興基本計画における【施策6、健康や体力を保持増進する力の育成】の一環として体力向上に向けて体育科の授業や外遊びの工夫・改善・授業の始めにサーキットトレーニングを取り入れ、継続して体力づくりを進める。

2－2. 取組を実施することにより期待できる効果

用具を充実させ、場を設定することで、運動しようという意欲付けになる。体育館遊びも取り入れて運動する時間の確保ができる。体育の時間にサーキットトレーニングを取り入れることで基礎体力の向上につながる。

2－3. 具体的な実施内容

竹馬や一輪車の練習する場所を今まで活用されてなかったところに設置したり、バスケットゴールも3ON3やフリースローなどのシュート練習を行えるようにしたり、なわとび板の設置したりと場所が狭くてもできる運動を休み時間に行えるようにした。また、その運動を点数化して励みになるような目標をつくり体力向上週間を設けて全校で取り組む。サーキットトレーニングをとりいれることでいろいろな運動に慣れ親しみ、巧緻性を鍛える。

2－4. 取組に対する達成状況（A～D）及びその評価理由

体力向上については、運動用具を使って場を設定したり、サーキットトレーニングを授業に取り入れたりしたことで、体力合計点は、男子は全国平均に-1ポイントに近づき、女子は2ポイント上回ることができた。

以上の成果から、A評価とした。

3. 総論

3－1. 年度目標の達成状況、総評

デジタル教科書やタブレットを使って学習を進め、ICTを使った授業は分かりやすいという児童アンケートの目標を85%に設定していたが、結果は大きく上回り、94%であった。やはり、視覚支援を多く取り入れたことで学習への意欲付けになり、集中して学習をすることができた。教材の準備の時間を軽減することで、児童の個別学習を放課後に十分とる余裕ができ、長時間勤務を減少することにもなった。

体力向上については、運動用具の充実、場の設定の工夫、運動時間の確保をしたことで運動に親しむ児童が増え、体力合計点も昨年に比べて向上することができた。

以上の結果から、年度目標に対する達成状況を「A」評価とした。

3－2. 学校協議会における意見

「継続して算数科において系統立てた学習をし、ICTを取り入れた授業を多くすることで学力の向上につながっていることはありがたい」という意見をいただいた。